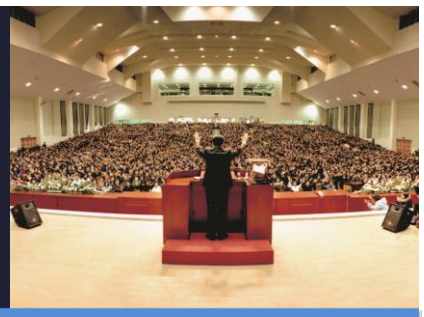
第 2019-12 号

恵みと真理のニュース



2019 年 03 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

神様の助けがなかったならば生きなかったでしょう。もっと熱心に神様を愛して神様の御言葉に従順し神様と共に生活をします。

私は姉の紹介で旦那に出会い結婚しました。ソウルで二人の子供を生んで生活は豊かではなかったですが幸せで暮らしました。兄の家はオサンでしたが、義兄が近く住みましょうと進めてわたしの家族もオサンに引っ越しました。そして、旦那が建築の仕事をする義兄から勧められて建築の仕事をするようになりました。そうしながら、全国のあちこちを行って仕事をしたので家にいる日より外で働く日がもっと多かったです。まだ、子供達が幼くて経済的にも大変で私もアルバイトをするようになりました。
アルバイトをしながら知った友達がわたしの家に来て共に時間を過ごしているときに表玄関の扉をたたく音がしました。“誰ですか？”と聞くと教会から来ました。”としました。私がもういいです。と冷たく断ると友達が“私達の教会の首区域長だと言い嬉しく迎えました。私は結婚する前、ちょっとだけ教会に行ったことがありました。首区域長と約束をして帰って来た主日に子供達をつれて恵と真理教会に行って１１時礼拝に参席して決心しました。
決心はしましたが、私は相変わらず不信者と違いがない生活をしながら礼拝に参席したりしました。そうするうちに旦那は酒が好きでよく地方に行ったのでさまざまな事で争いがありました。全てを失ったようにわたしの心には空しくなりました。すると私は始めて神様を探して切に祈るようになりました。区域の首区域長にも私の状況を話して祈りを願いました。切ない心で膝をまずく神様の助けを求めながら祈りました。
ある日の夜でした。当会長の牧師の説教を聴いているうちに御言葉が私に下さる神様の御言葉でした。詩篇７７編１節から１２節の御言葉の本文の“愚門賢答”という題目の説教でした。御言葉がわたしの心に感動と感激を受けてわたしの心に神霊な平安と希望が充満になりました。その後、わたしは御言葉の恵を愛し主日礼拝、平日礼拝、区域礼拝に熱心に参席しました。そのように主と近づいて聖霊の賜物を愛する中で区域長の祈り会で聖霊洗礼を受けました。続いて児童区域長の職分を受けて心を尽くして子供達を仕えました。
熱心に職分を担えながら礼拝中心の生活をすると不信家庭で成長した旦那が私を迫害をしました。地方出張で旦那が家にいない日は自由に神様に礼拝をしましたが、旦那の家にいる日には買い物に行くと聖書を入れたかばんを持って教会に行って礼拝を捧げました。旦那の迫害が激しくなるほどわたしはもっと礼拝をささげました。先日に私達の夫婦が大きく言い争っても次の日に教会に行って礼拝を捧げると、神様はその時ことに大きい慰めと力を下さって旦那を理解して赦す心を与えてくださいました。旦那の救いと変化のため区域の聖徒達と教区長と区域長達が共に祈ってくださいました。
すると信じられないことがおきました。主日に子供達と教会に行って楽しく礼拝を捧げて旦那を心配しながら家に帰って来たら旦那は“朝私を起こしたらよかったのに”そうしたら私も教会に行ったのに”と言いました。“ハレルヤ！父なる神様、感謝します。私は本当に嬉しくて神様に感謝賛美を捧げました。主日に旦那が決信しました。”“私はもう嬉しくて神様に感謝、賛美をしました。帰って来た主日に旦那が決心しました。私は礼拝を捧げる間、心が嬉しくて限りなく涙を流しました。
子供達が成長して娘は大学生になり息子は高校生になりました。ところが息子が酷く思春期になり私達の家庭で危機が来ました。息子の友達が問題を起こして友達だけでなく息子も問題になり、私としては担えられない大変なことを経験しました。教区伝道士が祈ってくださり、助けて受ける教会の執事を紹介しました。
私はエスター祈り会に行って問題がよく解決するのを願いながら切に神様に祈りました。ハレルヤ！多くの方々の祈りとわたしの切ない涙の祈りを神様が聞いてくださり、能力で働いてくださって不幸の中で幸いに問題をよく解決することが出来ました。愛と哀れみ深い神が 万事が益となるように共に働いてくださいました。息子の問題で私は落胆もして恨みと不平も多くしました。ところが帰ってみると神様は息子を通して私を練達させました。信仰の不従順を一つ一つ取り除いてくださる過程だったのを後に悟りました。“ しかし、神はわたしの歩む道を／知っておられるはずだ。わたしを試してくだされば／金のようであることが分かるはずだ。”（ヨブ記２３：１０）神様の恵みと愛に感謝捧げます。
娘が学業を終えて就職しましたが、会社が不安定でビジョンが見えませんでした。娘は職場を移す決議をして他の会社に入社願書を出しました。私は娘が願う会社に入ってやりがいがある仕事をするようにダニエル祈り会に入りました。そして、期間を決めて祈りをして最後の日に新しい職場を下さって娘は楽しい心で仕事をしました。信仰が弱かった娘だったが神様が生きておられるのと全能なるのを悟り、神様の恵みになったのを告白しながら神様の前に近づくようになりました。私達の母娘は受けた恵みと賜物を用いてドンタン聖殿のアンドレ聖歌隊で奉仕しています。
　昨年５月でした。教区の知り合いの勧士が脳動脈瘤が会って回復手術を受けたから回復していて病院に行きましたが、私達の恵と真理教会で聖徒達にこの病院で総合検診の費用を割引してくれる事実を知りました。兄にくも膜下出血と動脈瘤があったから私も検診を受けなければならないと考え勧士に話をすると病院の室長を通して予約してくれました。検診結果を通して右脳に動脈瘤が発見され勧士が手術を受けた大学病院に入院して“コイル塞栓術を受けました。これも神様の恵みでした。神様は私を通して先に発見させて治療するように導いて摂理してくださいました。わたしの人生を帰ってみると神様の助けがなかったならばどう生きたのか？怖かったのです。いつも私を助けてくださる神様を畏れ愛します。尊い職分を下さって恵と真理教会を仕え奉仕するように環境の扉を開いてくださった神様、感謝します。
相変わらず主を愛し委ねながら、主だけを願い、小さいことにも最善を尽くして忠誠した主の子供になるのを毎日祈ります。実りを得ても得られなくても熱心に福音を伝えます。神様を愛し神様の御言葉に従順して神様と共に働く生活をします。真に良い神様、わたしの主に感謝をささげ全ての栄光を捧げます。

[信仰コラム]　私の心に適う人

”...彼についてあかしをして，『わたしはエッサイの子ダビデを見つけた。彼はわたしの心にかなった人で，わたしの思うところを，ことごとく実行してくれるであろう 』と言われた。”（使徒言行録13:21，22）

旧約聖書でイスラエルの歴史に対する記録を見ると”その父ダビデとは違って”あるいは”先祖 ダビデの道に歩んで”という言葉がユダヤ歴代王に対する評価基準として記録されています。ダビデはこのような面で神様に認められた人でした。ダビデがどのようにして神様から”私の心に適った人”という名誉のある称号を得たのかを調べてみます。
第一、ダビデは自分に任された事を使命感を持って誠実に遂行しました。
少年ダビデは兄達が好まない羊飼いを担って父親と兄達に不評せず、自分に任された事を誠実にしました。さらに、命をかけて羊の群れから子羊を握るししと熊をついていき戦って殺しました。自分に任された事を責任感を持って誠実に楽しく、積極的に能動的に遂行しました。人にするようにせず、神様にするようにしたからです。誠実は神様の品性であります。神様の心に適う人とは自分がすべきことを誠実に遂行するこのような人です。
第二、ダビデは神様が委任なさった権威を尊重しました。
神様の決定には神様の絶対的な権威が内在されています。また、全ての権威は神様から下り、神様の思いに合わせて使用されるべきです。
ダビデがゴリアテを殺してイスラエルが勝利を得ると、民達が歓呼しました。するとサウル王はダビデを警戒するようになり、やがてダビデを殺そうとしました。そのようなサウル王を殺す機会がダビデに 2 回もありました。しかし、ダビデはサウル王を殺さずに追従者達にもサウル王を害することがないようにしました。ダビデがそのように行った理由はサウル王に委任された神様の権威を重大に扱ったからです。神様がくださった権威を神様の思いに逆らって乱用したサウル王に対しては神様が審判なさるが、ダビデ自分が審判者の座に立つ越権行為はしないようとしたのです。神様の心に適う人とは神様の権威を重んじるこのような人です。
第三、ダビデはいかなる状況でも神様だけに仕えました。
ダビデは長い時間をサウル王の追跡から避けて逃避生活をしました。近隣国に逃避して異邦王の助けまで受けました。しかし、偶像を拝む国に留まり異邦王の助けを受ける状況でも自分の安全と生存のために偶像宗教に仕える行為は決してしませんでした。神様の心に適う人とはどんな状況でもイエスキリストの神様だけに仕えるこのような人です。
第四、ダビデは礼拝捧げるのを渇望して楽しみました。
”あなたの大庭にいる一日は，よそにいる千日にもまさるのです。わたしは悪の天幕にいるよりは，むしろ，わが神の家の門守となることを願います”。ダビデがサウル王の追跡から避けて逃げる時に一番願ったことの中で一つが神様の聖所に進んで礼拝することでした。また、ダビデは神様を礼拝する所である聖殿を建築するのを熱望しました。神様がこれを許さないと聖殿建築のための資材と建築費用と奇術者まで豊かに予備することをしました。聖殿建築の設計まで終えました。そしてはこの全てを息子のソロモンに渡しました。ダビデはこのように神様を礼拝するのを大きな楽しみと特権に扱いました。神様の心に適う人とは礼拝捧げるのを渇望して楽しむこのような人です。
神様が”わたしはエッサイの子ダビデを見つけた。彼はわたしの心にかなった人で，わたしの思うところを，ことごとく實行してくれるであろう”と言われた理由も何よりも神様の主権的な選択にあります。しかし、一方にはダビデの性品と信仰的な態度にも関連があります。私達もこのようなダビデの性品と信仰的な態度を見習って行い、神様から”私の心に適う人”という栄誉である称号で呼ばれるように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

エサウとヤコブの人本主義と神本主義

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

「なぜ生きるのか？どのように生きなければならないのか？」このような質問は、誰でも持つ質問であり、また、必ずしも持たなければならない質問です。私たちはその答えを知っているし適用して生きています。その質問への答えは、どのように表現するかどうか、神を仕えるのが人生の理由であり、神の御旨にふさわしく生きることが生きる方法であることに通じるのであります。簡単明瞭に言えば、「神本主義で生きなければならない」ということです。神本主義は神の中心であり、人本主義は人間中心です。人がいつから、なぜ、神本主義を捨てて人本主義で生きるかということと神本主義と人本主義の実像について、聖書に明らかに啓示されています。これに関連して、今日はエサウとヤコブの記録で見るようになる人本主義と神本主義を見てみましょう。

イサクは 40 歳にリベカと結婚しました。リベカが双子を妊娠しました。神がリベカに言われました **「ところがその 子らが 胎内で 押し合ったので， リベカ は 言った， 「こんなことでは， わたしはどうなるでしょう 」．彼女は 行って 主に 尋ねた． 主は 彼女に言われた， 「二つの 國民があなたの 胎内にあり， 二つの 民があなたの 腹から 別れて出る． 一つの 民は 他の 民よりも 強く，兄は 弟に 仕えるであろう」（ 創世記 25：22,23）**しました。リベカが出産したときに、最初に出てきた子供はエサウと呼び、彼の弟は、ヤコブと呼ばれました。エサウは狩りをすることを知っている野原の者になり、ヤコブは天幕で生きる静かな人になりました。
ある日はエサウが狩りをして戻ってくるとき、ヤコブが赤いものしるこを沸かしました。エサウはヤコブにしるこを食べるようにヤコブは長子権を自分に与えるとしるこを与えると言いました。するとエサウの長子権を与えるという誓いまでした後、おしるこを得て食べました。聖書に記録されるのを**「そこで ヤコブ は パン と レンズ 豆のあつものとを エサウ に 与えたので， 彼は 飲み 食いして， 立ち 去った．このようにして エサウ は 長子の 特權を 輕んじた 」（創世記 25:34）と**しました。
当時の長子権は、家庭の代表権と財産の行事権を承継される重要な権利であった。長者は母が亡くなるまで鳳陽しなければならず姉が結婚するまで、それら守らなければならないでした。長子の権利は、長子が重大な誤りを犯した場合、失われることがあり、長者自ら他の兄弟に売ることができました。アブラハムの子孫にとって長子の権利は、カナンの地と一緒に主の契約的な関係を所有することが含まれていました。ヤコブはこれを知っていたまた、それが彼に長者の祝福を慕うことにしました。エサウもそれを知っていたが、それを価値あるものには思わなかった。神が長者に与え祝福の契約をヤコブが募たのは神本主義なものです。しかし、空腹で切迫でエサウが交渉して長子の権利を自分のものにしようとしたヤコブの仕業は人文主義的なものです。

イサク は 年老い， 目がかすんで 見えなくなった 時， 長子 エサウ を 呼んで 言った，「子よ 」． 彼は 答えて 言った， 「ここにおります 」．イサク は 言った． 「わたしは 年老いて， いつ 死ぬかも 知れない． わたしの 好きなおいしい 食べ 物を 作り， 持ってきて 食べさせよ． わたしは 死ぬ 前にあなたを 祝福しよう 」． イサク がその 子エサウ に 語るのを リベカ は 聞いていた．やがて エサウ が， しかの 肉を 獲ようと野に 出かけたとき， リベカ はその 子 ヤコブ に 言った， 「わたしは 聞いていましたが， 父は 兄 エサウ に， 『わたしのために，しかの 肉をとってきて， おいしい 食べ 物を 作り， わたしに 食べさせよ． わたしは死ぬ 前に， 主の 前であなたを 祝福しよう 』と 言いました．
ヤコブが子やぎを取って母に持って来ましたので、イサクの好きなおいしいものを作りました。リベカはエサウ服を取って、ヤコブに着せヤギの革を手と首のなめらかな所に着せました。ヤコブは母が作ったおいしいものとパンを持って父に行って言った、「エサウです。起きてすわり、私が狩りしてきたのを召し上がりになって、私を存分に祝福してください」としました。不思議に感じられたイサクがヤコブを触りながら「声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ。」と言いました。イサクが珍味をおいしく食べた後、ヤコブに精一杯祝福しました。ヤコブが祝福を受けるのを慕うことは、神本主義的なものです。しかし、狡猾に父をだましでエサウの祝福を横取りしたのは、人文主義の行為です。
しばらくしてからエサウが狩りして戻ってきました。エサウもおいしいものを作り父に持って来ました。**「イサク が ヤコブ を 祝福し 終って， ヤコブ が 父 イサク の 前から 出て行くとすぐ， 兄 エサウ が 狩から 帰ってきた．彼もまたおいしい 食べ 物を 作って，父の 所に 持ってきて， 言った， 「父よ，起きてあなたの 子のしかの 肉を 食べ， あなたみずから， わたしを 祝福してください 」． 父 イサク は 彼に 言った， 「あなたは， だれか 」． 彼は 言った， 「わたしはあなたの 子， 長子 エサウ です 」． イサク は 激しくふるえて 言った， 「それでは， あのしかの 肉を 取って， わたしに 持ってきた 者はだれか． わたしはあなたが 來る 前に， みんな 食べて 彼を 祝福した．ゆえに 彼が 祝福を 得るであろう 」． イサク は 激しくふるえて 言った， 「それでは，あのしかの 肉を 取って， わたしに 持ってきた 者はだれか． わたしはあなたが 來る前に， みんな 食べて 彼を 祝福した． ゆえに 彼が 祝福を 得るであろう 」． イサク は 答えて エサウ に 言った， 「わたしは彼をあなたの 主人とし， 兄弟たちを 皆しもべとして 彼に 与え， また 穀物とぶどう 酒を 彼に 授けた． わが 子よ， 今となっては，あなたのために 何ができようか 」．エサウは 父に 言った， 「父よ， あなたの 祝福はただ 一つだけですか． 父よ， わたしを，わたしをも 祝福してください エサウ は 声をあげて 泣いた」**
ヘブル人への手紙 11 章に記録されるのを**「 一杯の 食のために 長子の 權利を 賣ったエサウ のように， 不品行な 俗惡な 者にならないようにしなさい． あなたがたの 知っているように， 彼はその 後， 祝福を 受け繼ごうと 願ったけれども， 捨てられてしまい， 涙を 流してそれを 求めたが， 悔改めの 機会を 得なかったのである」（ヘブル人への手紙 11：16,17）**しました。

エサウは、自分の意で決定して長子の権利をヤコブに既に渡しました。彼は父に「私は長子権をヤコブに渡したので、私は長者権に与えたので祝福を受ける権利がありません。」と率直に話すべきです。それでも父から長子の祝福をすべて受けようとしたのは、人文主義的な行為です。
ヤコブの仕業についてエサウが怒りで言う「父がこの世を去る日が近いなんてその時私がヤコブを殺す」としました。この言葉をリベカが聞きヤコブを呼んで頼んでいいました。」エサウがあなたを殺し、自分の恨みを解こうとしたら、あなたはハランに私の兄弟ラバンのところへ逃げて、あなたの兄の怒りが解けるまで、数日間滞在しなさい。あなたに対した兄の怒りが解ければ、私は人を送って君をそこから連れてくる」リベカはヤコブに片の好みが過ぎ余ってヤコブが父から長子の祝福を受けるように図りを出した結果としての心に恨みを持つようになりました　一方では、愛する息子ヤコブを遠く見知らぬ場所に離れて送らなければならないでした。これはリベカが人本主義的に行動したので自業自得したのです。
ハランに到着したヤコブは、おじの歓迎を受けました。一ヶ月が過ぎた後、ラバンはヤコブに働い代わりに何をしたいのか尋ねました。ヤコブが母方のおじの小さな娘ラケルを愛したので、ラケルと結婚するのを要請しました。7 年を働いた後婚宴をしたラバンはトリックを使って、ヤコブの花嫁にラケルではなく、長女レアをくれました。結局ヤコブはラケルを妻に得るために再び戻って 7 年の間に、ラバンのために代価なしに働いた。ヤコブは、子を産んだ後、以前とは異なる方法で叔父と賃金契約をし、最終的に神の助けで大金持ちになった。ついにヤコブは、家族や奴婢と獣の群れを率いてハランを離れ立ちカナアンに向かいました。
ヤコブは故郷に向かうところ兄エサウは四百人を率いて来る情報を聞きました。彼はエサウに送る贈り物として二群れの獣を先に送りました。それでも安心ができなくて獣の群れと奴婢たちと家族を先に送って一人でヤボク川にとどまっていました。もしでは積極的に出てくると、自分一人でも逃げていく考えです。この利己的思考や行動が人本主義的なものです。
ところが、日が暗くなったときに誰かがヤコブを抱きしめました。その時でした瞬間、ヤコブは彼が神の使者だと悟って祝福してくれるように祈りました。夜明けまで格闘してから、彼はヤコブの腰の骨を打つと、骨が脱臼しました。それでもヤコブが置かずに「私を祝福していないと送くれません」と言いました。ヤコブは当面の問題を自分の力だけで解決しようとしていたことをあきらめました。神の恵みと祝福を受けることが優先べきであることを悟りました。彼の名前を聞くのをヤコブが答えた、彼は言った、「あなたの名前をもはやヤコブと呼ばず、イスラエルと呼ぶのだから、あなたは神と競って勝ったからである。」しました。ヤコブが神本主義に戻りましたヤコブの心で心配や不安が消えました。

いままで説明したように、完全に人本主義に行したが、ヤコブは神本主義に行いしたり人本主義で行ないしたりしました。それと共に徐々に深く神本主義に進みしました。私たちも、ヤコブのようになって神本主義がより優勢でなって万事を神本主義に考えて行動することに至っなるのを願います。